



# Sun N1 Service Provisioning System ユーザーズガイドおよびリ リースノート(Sun Java System Web Server Plug-In 2.0)

---

Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054  
U.S.A.

Part No: 819-4228-10  
2005 年 9 月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。©Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. ©Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザーインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun N1 Service Provisioning System User's Guide and Release Notes for the Sun Java System Web Server Plug-In 2.0

Part No: 819-2902-10

Revision A



051017@13215



# 目次

---

- はじめに 5
  
- 1 Sun Java System Web Server プラグインの概要 9**
  - Sun Java System Web Server プラグインの目的 9
  - Sun Java System Web Server プラグインに含まれるもの 10
  - Sun Java System Web Server プラグインの要件 10
  
- 2 リリースノート 13**
  - インストール上の問題 13
    - Linux 上で管理サーバーをアンインストールしても RPM パッケージが削除されない (6315590) 13
  - 国際化の問題 14
    - ヨーロッパのロケールの一部で管理サーバーのインストールが失敗する (6255175) 14
  - 記述の誤りの訂正 15
    - ReadMe.txt ファイルに記述されている Sun Java System Web Server のバージョンが正しくない 15
  
- 3 Sun Java System Web Server プラグインのインストールと構成 17**
  - Sun Java System Web Server プラグインの取得 17
  - Sun Java System Web Server プラグインの N1 Service Provisioning System への追加 18
    - ▼ ブラウザインタフェースを使用して Sun Java System Web Server プラグインをインポートする 18
    - ▼ CLI を使用して Sun Java System Web Server プラグインをインポートする 18

<b>4</b>	<b>Sun Java System Web Server プラグインの使用法</b>	<b>21</b>
	Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 の紹介	21
	Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 のインストール	22
	セッション変数の作成	22
	▼ セッション変数を作成する	23
	▼ 管理サーバーと1つめの Web Server インスタンスのインストール法	23
	Web Server インスタンスの作成と削除	25
	▼ Web Server インスタンスを追加で作成する	25
	▼ Web Server インスタンスを削除する	26
	Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 の制御	27
	▼ 管理サーバーおよび Web Server インスタンスを制御する	27
<b>5</b>	<b>コンポーネント、プラン、およびホストタイプに関する詳細</b>	<b>29</b>
	コンポーネント	29
	WebAdminServer コンポーネント	29
	WebServerInstance コンポーネント	32
	プラン	33
	InstallWebAdminServer プラン	33
	InstallWebAdminServer プラン	33
	CreateWebServerInstance プラン	33
	DeleteWebServerInstance プラン	34
	ホストタイプ	34
	索引	35

## はじめに

---

このマニュアルでは、Sun N1™ Service Provisioning System ソフトウェアを使用して Sun Java™ System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 の取得と配備を行う方法について説明します。

---

注 - このマニュアルでは、「x86」とは Intel の 32 ビットマイクロプロセッサファミリー、およびこれと互換性のある 64 ビットおよび 32 ビットの AMD 製マイクロプロセッサを指します。

---

---

## 対象読者

このマニュアルの主な対象読者は、N1 Service Provisioning System ソフトウェアを使用して Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 を配備、制御するシステム管理者や、N1 Service Provisioning System ソフトウェアのオペレータが含まれます。読者は、次のことに精通している必要があります。

- N1 Service Provisioning System 製品
- 標準的な UNIX® コマンドおよびユーティリティー
- Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 製品の一般的な概念、およびこの製品が提供する管理機能

---

## お読みになる前に

N1 Service Provisioning System ソフトウェアおよび Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 の使用に精通していないユーザーは、次のマニュアルを参照してください。

- 『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Installation Guide for UNIX』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 システム管理者ガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 オペレーションとプロビジョニングガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 リリースノート』

---

## 内容の紹介

第 1 章では、プラグインソリューションに関する概要を提供します。

第 2 章では、インストール時と実行時における問題点について解説します。

第 3 章では、プラグインのインストールと構成について説明します。

第 4 章では、プロビジョニングシステムを使用し、Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 管理サーバーおよび Web Server Instances のインストール、削除、および制御を行う方法について説明します。

第 5 章では、Sun Java System Web Server プラグインに含まれるコンポーネント、プラン、およびホストタイプについて解説します。

---

## マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL	内容
マニュアル	<a href="http://jp.sun.com/documentation/">http://jp.sun.com/documentation/</a>	PDF 文書および HTML 文書をダウンロードできます。
サポートおよびトレーニング	<a href="http://jp.sun.com/supporttraining/">http://jp.sun.com/supporttraining/</a>	技術サポート、パッチのダウンロード、および Sun のトレーニングコース情報を提供します。

---

## 表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>system% su</code> <code>password:</code>
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャー・ユーザーズガイド』を参照してください。

表 P-1 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。  この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% <b>grep</b> <code> `^#define \</code>  <code> XV_VERSION_STRING'</code>

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

## 第 1 章

---

# Sun Java System Web Server プラグインの概要

---

この章では、N1 Service Provisioning System を使用して Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 をプロビジョニングする方法について、一般的な情報を提供します。この章では、次の内容について説明します。

- 9 ページの「Sun Java System Web Server プラグインの目的」
- 10 ページの「Sun Java System Web Server プラグインに含まれるもの」
- 10 ページの「Sun Java System Web Server プラグインの要件」

---

## Sun Java System Web Server プラグインの目的

N1 Service Provisioning System ソフトウェアは、Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 のサポート機能を強化します。Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 はセキュリティー保護されたかつ非常に可用性の高いサーバーで、Web サイトをホストするために使われます。Sun Java System Web Server プラグインは、基本的なインストールインフラストラクチャーのインストールとアンインストールを行うプランとコンポーネントを提供します。基本的なインストールインフラストラクチャーには、管理サーバーと Web Server インスタンスが含まれます。また、このプラグインは、これらのサーバーのインスタンスを起動、停止、および再起動するための制御機能も提供します。

---

## Sun Java System Web Server プラグイン に含まれるもの

Sun Java System Web Server プラグインは /com/sun/jes6\_ws ディレクトリを作成します。

次に示すプランとコンポーネントに関する詳細については、[第 4 章](#)を参照してください。

InstallWebAdminServer	管理サーバーと、1 つめの Web Server インスタンスをインストールするプラン。
UninstallWebAdminServer	管理サーバーと、すべての Web Server インスタンスをアンインストールするプラン。
CreateWebServerInstance	Web Server インスタンスを追加で作成するプラン。
DeleteWebServerInstance	追加の Web Server インスタンスを削除するプラン。
WebAdminServer	管理サーバーのインストール、アンインストール、起動、停止、および再起動を制御するコンテナコンポーネント。
WebServerInstance	Web Server インスタンスのインストール、アンインストール、起動、停止、および再起動を制御するコンテナコンポーネント。

---

## Sun Java System Web Server プラグイン の要件



---

注意 – Sun Java System Web Server プラグイン 2.0 は、Sun N1 Service Provisioning System 5.1 環境で動作します。ほかのバージョンの N1 Service Provisioning System には Sun Java System Web Server プラグイン 2.0 をインストールしないでください。

---

Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 を配備するホストは、次の要件を満たす必要があります。

- Solaris 8 OS、Solaris 9 OS、Solaris 10 OS、または Red Hat Linux Advanced Server 2.1 を実行していること。

---

注 - Solaris 8 は SPARC ベースのサーバーのみです

---

- Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 のインストールファイルが格納されていること。
- Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 のインストール要件を満たしていること。詳細は、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Installation Guide for UNIX』を参照してください。
- リモートエージェントを実行していること。



## 第 2 章

---

# リリースノート

---

この章では、既知の問題点に関する情報を提供します。この章では、次の内容について説明します。

- 13 ページの「インストール上の問題」
- 14 ページの「国際化の問題」
- 15 ページの「記述の誤りの訂正」

---

## インストール上の問題

この節では、インストールに関連した問題について説明します。

### Linux 上で管理サーバーをアンインストールしても RPM パッケージが削除されない (6315590)

Sun Java System Web Server プラグインを使用して管理サーバーをアンインストールした場合、Red Hat Package Manager (RPM) パッケージの一部が Linux サーバーからアンインストールされません。管理サーバーを再インストールしようとすると、残っているこれらの RPM パッケージのために再インストールが失敗します。

回避策: Java Enterprise System スタック全体の一部として Sun Java System Web Server を使用している場合は、Java Enterprise System のマニュアルで RPM パッケージと残ったままになっているファイルの削除方法を確認してください。

Java Enterprise System スタックとは別にスタンドアロン製品として Sun Java System Web Server を使用している場合は、次のアイテムを手動で削除する必要があります。

- 次の RPM パッケージを削除します。

```
sun-webserver-es-6.1.5-5
```

```
sun-webserver-fr-6.1.5-5
sun-entsys4-uninstall-110n-4.0-14
sun-webserver-de-6.1.5-5
sun-webserver-zh_CN-6.1.5-5
sun-webserver-6.1.5-6
sun-webserver-ja-6.1.5-5
sun-webserver-zh_TW-6.1.5-5
sun-webserver-en-6.1.5-5
sun-wbsvr-entsys4-4.0-200508091754
sun-webserver-ko-6.1.5-5
```

- productRegistry ファイルを削除します。

```
% rm -rf /var/opt/sun/install/productregistry
```

- Sun Java System Web Server をインストールしたディレクトリから、残っているファイルを削除します。デフォルトディレクトリは /opt/sun です。

```
% rm -rf /opt/sun/private
```

```
% rm -rf /opt/sun/webserver
```

```
% rm -rf /opt/sun/shared
```

---

## 国際化の問題

この節では、Sun Java System Web Server プラグインをロケールで実行するときの問題について解説します。

### ヨーロッパのロケールの一部で管理サーバーのインストールが失敗する (6255175)

管理サーバーをフランス語、ドイツ語、およびスペイン語ロケールでインストールしようとする、次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
Problems encountered during plan run or preflight
```

```
The plan (or preflight) "/com/sun/jes6_WS/InstallWebAdminServer" finished with 1 failed host(s). (017034)
```

```
The execNative step failed because the exit status "0" of the command did not match "75" for the command "sh". (017068)
```

回避策: ヨーロッパのロケールでプロビジョニングシステムを使用して管理サーバーを正常にインストールするには、管理サーバーをインストールするサーバーでリモートエージェントを C ロケールで実行します。

---

## 記述の誤りの訂正

この節では、Sun Java System Web Server プラグインとともに提供される ReadMe.txt ファイルの誤りについて解説します。

### ReadMe.txt ファイルに記述されている Sun Java System Web Server のバージョンが正しくない

「Plug-In Details」ページで Sun Java System Web Server プラグインの ReadMe.txt ファイルをダウンロードできます。ReadMe.txt ファイルには、Sun Java System Web Server プラグインが Sun Java Enterprise System 2005Q1 バージョンの Sun Java System Web Server を使用していると記述されていますが、これは誤りです。Sun Java System Web Server プラグインは、Sun Java Enterprise System 2005Q4 バージョンを使用しています。

Sun Java Enterprise System 2005Q4 バージョン関連の圧縮ファイルは、次のとおりです。

- java\_es\_05Q4\_webserver-solaris-sparc.zip
- java\_es\_05Q4\_webserver-solaris-x86.zip

Sun Java Enterprise System 2005Q4 ソフトウェアのバイナリを解凍すると、ディレクトリ構造は次のようになります。

- /java\_es\_05Q4\_webserver/Solaris\_sparc
- /java\_es\_05Q4\_webserver/Solaris\_x86



## 第 3 章

---

# Sun Java System Web Server プラグインのインストールと構成

---

この章では、Sun Java System Web Server プラグインのインストールと構成の方法について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 17 ページの「Sun Java System Web Server プラグインの取得」
- 18 ページの「Sun Java System Web Server プラグインの N1 Service Provisioning System への追加」

---

## Sun Java System Web Server プラグインの取得

Sun Java System Web Server プラグインソリューションは、N1 Service Provisioning System ソフトウェアのプラグインとしてパッケージ化されています。プラグインは、Java アーカイブ (JAR) ファイルにパッケージ化されています。Sun Java System Web Server プラグインソリューションのプラグインファイルは、Sun N1 Service Provisioning System 5.1 Supplement CD または Sun Download Center から入手できます。

Sun Java System Web Server プラグインは、2 つの異なる JAR ファイルからインポートして入手できます。状況に応じて、適切なファイルを選択してください。

- Sun Java System Web Server プラグインを初めてインポートする場合は、`com.sun.jes6_WS_2.0.jar` ファイルを入手してください。
- Sun Java System Web Server プラグインの旧バージョンをすでにインポートしてある場合は、`com.sun.jes6_WS_1.0_2.0.jar` ファイルを入手してください。

---

# Sun Java System Web Server プラグイン の N1 Service Provisioning System への 追加

指定のプラグインを N1 Service Provisioning System 製品に知らせるには、プラグインをインポートする必要があります。

## ▼ ブラウザインタフェースを使用して Sun Java System Web Server プラグインをインポートする

プラグインのインポートまたはアップグレードは、次の手順で行います。詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 システム管理者ガイド』の第 5 章「プラグインの管理」を参照してください。



---

注意 – Sun Java System Web Server プラグイン 2.0 は、Sun N1 Service Provisioning System 5.1 環境で動作します。ほかの N1 Service Provisioning System バージョンには Sun Java System Web Server プラグイン 2.0 をインストールしないでください。

---

- 手順
1. ブラウザインタフェースのメインウィンドウの「**Administrative**」セクションで、「**Plug-ins**」をクリックします。
  2. 「**Plug-ins**」ページの「**Action**」列で、「**Import**」をクリックします。
  3. **JAR** ファイルをダウンロードした場所に移動します。
    - Sun Java System Web Server プラグインを初めてインポートする場合は、`com.sun.jes6_WS_2.0.jar` ファイルを選択します。
    - Sun Java System Web Server プラグインの旧バージョンをすでにインポートしてある場合は、`com.sun.jes6_WS_1.0_2.0.jar` ファイルを選択します。
  4. 「**Continue to Import**」ボタンをクリックします。  
インポートが完了するとプラグインの詳細ページが表示され、プラグインが提供するオブジェクトに関する情報が示されます。

## ▼ CLI を使用して Sun Java System Web Server プラグインをインポートする

コマンド行を使用し、プラグインのアーカイブファイルをインポートすることも可能です。

手順 ● CLI からプラグインファイルをインポートするには、次のように入力します。

```
% cr_cli -cmd plg.p.add -path plugin-filename -u username -p password
```

- Sun Java System Web Server プラグインを初めてインポートする場合は、*plugin-filename* は `com.sun.jes6_ws_2.0.jar` です。
- Sun Java System Web Server プラグインの旧バージョンをすでにインポートしてある場合は、*plugin-filename* は `com.sun.jes6_ws_1.0_2.0.jar` です。



## 第 4 章

---

# Sun Java System Web Server プラグインの使用法

---

Sun Java System Web Server プラグインには、Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 管理サーバーと Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 Web Server インスタンスをインストールし、制御するための多数のコンポーネントとプランが付属しています。この章では、次の内容について説明します。

- 21 ページの「Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 の紹介」
- 22 ページの「Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 のインストール」
- 25 ページの「Web Server インスタンスの作成と削除」
- 27 ページの「Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 の制御」

---

## Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 の紹介

Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 はセキュリティ保護されたかつ非常に可用性の高いサーバーで、Web サイトをホストするために使われます。Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 製品をインストールすると、次の 2 つのサーバーインスタンスがインストールされます。

- 管理サーバー
- Web Server インスタンス

管理サーバーは Web ベースのサーバーで、すべての Web Server インスタンスの構成に使用される Java フォームを含みます。1 つめの Web Server インスタンスをインストールすると、管理サーバーを使用して追加のインスタンスをインストールできます。

Sun Java System Web Server プラグインにより、N1 Service Provisioning System を使用して Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 管理サーバーおよび Web Server インスタンスをインストールし制御できます。プロビジョニングシステムを使用し、管理サーバーと 1 つめの Web Server インスタンスを同時にインストールできます。

プロビジョニングシステムは、Web Server のインスタンスを追加でインストールできません。追加のインスタンスを手動でインストールするには、管理サーバーを使用する必要があります。ただし、CreateWebServer プランを使用し、これらのインスタンスをプロビジョニングシステムのデータベースに追加すると、プロビジョニングシステムを通じてすべての Web Server インスタンスを制御できます。

---

## Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 のインストール

プロビジョニングシステムを使用して Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 をインストールすると、プロビジョニングシステムは管理サーバーと 1 つめの Web Server インスタンスをインストールします。Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 をインストールするには、次の手順に従います。

1. JES\_ADMIN\_PASSWORD および WEB\_ADMIN\_PASSWORD セッション変数を作成します。  
[22 ページの「セッション変数の作成」](#) を参照してください。
2. 管理サーバーと 1 つめの Web Server インスタンスをインストールします。  
[23 ページの「管理サーバーと 1 つめの Web Server インスタンスのインストール法」](#) を参照してください。

### セッション変数の作成

Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 をインストールするには、Sun Java System Web Server をインストールし、管理サーバーにアクセスするために使用するパスワードを作成する必要があります。プロビジョニングシステムは、パスワードなどの機密データをセッション変数として保存します。パスワードをセッション変数として保存すると、パスワードは、ほかのユーザーがパスワード情報にアクセスできないように保存されます。ただし、ユーザーがそのセッションにログインすると、プロビジョニングシステムはパスワード情報を使用できます。

Sun Java Enterprise System のインストールプログラム用に、Common Server Settings パスワードを作成する必要があります。JES\_ADMIN\_PASSWORD というセッション変数を作成します。Sun Java Enterprise System のインストールプログラムは、パスワードを使用して Sun Java System Web Server コンポーネントをインストールします。このパスワードの詳細については、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Installation Guide for UNIX』内の CMN\_ADMIN\_PASSWORD についての情報を参照してください。

管理サーバーへのアクセスに使用するパスワードを作成する必要があります。WEB\_ADMIN\_PASSWORD というセッション変数を作成します。このセッション変数に与える値は、管理サーバーへのアクセスに使用するパスワードです。プロビジョニングシステムを使用して管理サーバーをインストールする場合は、プロビジョニングシステムは管理サーバーのアクセスパスワードを、この変数の値に設定します。

## ▼ セッション変数を作成する

- 手順
1. **N1 Service Provisioning System** の任意のページから「**Session Variables**」をクリックします。  
「Session Variables」リンクは、ページの右上にあります。
  2. 「**Session Variables**」列の空白のフィールドに、**JES\_ADMIN\_PASSWORD** と入力します。
  3. 「**Password**」列のチェックボックスをオンにします。
  4. 「**Value**」列の空白のフィールドに、**Sun Java System Web Server** コンポーネントのインストールに使用するパスワードを入力します。
  5. 「**Create**」リンクをクリックします。
  6. **N1 Grid SPS** のパスワードフィールドに、**N1 Service Provisioning System** へのアクセスに使用するパスワードを入力します。
  7. 「**Save**」ボタンをクリックします。  
プロビジョニングシステムはセッション変数を作成し、セッション変数リストを返します。
  8. 「**Session Variable**」列の空白のフィールドに、**WEB\_ADMIN\_PASSWORD** と入力します。
  9. 「**Password**」列のチェックボックスをオンにします。
  10. 「**Value**」列の空白のフィールドに、管理サーバーへのアクセスに使用するパスワードを入力します。
  11. 「**Create**」リンクをクリックします。
  12. **N1 Grid SPS** のパスワードフィールドに、**N1 Service Provisioning System** へのアクセスに使用するパスワードを入力します。
  13. 「**Save**」ボタンをクリックします。

## ▼ 管理サーバーと 1 つめの Web Server インスタンスのインストール法

- 始める前に
- 管理サーバーと Web Server インスタンスを配備する前に、ターゲットサーバーに Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 のインストールファイルを保存しておく必要があります。詳細は、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Installation Guide for UNIX』を参照してください。

JES\_ADMIN\_PASSWORD および WEB\_ADMIN\_PASSWORD セッション変数を必ず作成してください。詳細については、23 ページの「セッション変数を作成する」を参照してください。

- 手順
1. 左側のコントロールパネルの「**Common Tasks**」セクションにある「**Sun Java System WS6**」アイコンをクリックします。
  2. 「**Install Web Admin Server: install**」リンクをクリックします。
  3. 「**Run**」ボタンをクリックします。
  4. 「**Plan Parameters**」テーブルで、**WebAdminServer** コンポーネントの「**Variable Settings**」列から「**Select From List**」をクリックします。  
「Select a Variable Setting」ウィンドウが開きます。
  5. 「**Variable Settings**」のリストで、説明に従って次の変数を変更します。
    - a. 管理サーバーのインストールに必要な名前/値ペアを含む状態ファイルをインストールするターゲットサーバー上のパスに、**installPath** 変数を設定します。
    - b. **JES\_Media\_Directory** 変数を、ターゲットサーバーの **Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5** インストールバイナリへのパスに設定します。
    - c. (省略可能) ターゲットサーバーの実際のドメイン名に、**hostDomain** 変数を設定します。
    - d. **Linux** サーバーに管理サーバーをインストールする場合は、次の変数を変更します。
      - **jesSystemGroup** 変数を **root** に設定します。
      - **webInstanceUser** 変数を **nobody** に設定します。
      - **webInstanceGroup** 変数を **nobody** に設定します。
    - e. 「**Select**」ボタンをクリックします。その他の変数の設定に関する詳細については、29 ページの「**WebAdminServer** コンポーネント」を参照してください。
  6. ターゲットホストを選択します。
  7. 「**Run Plan (includes preflight)**」ボタンをクリックします。  
**InstallWebAdminServer** プランは、次のタスクを実行します。
    - 管理サーバーと1つの **Web Server** インスタンスをインストールする。
    - **webAutoStart** 変数を **yes** に設定した場合は、管理サーバーおよび **Web Server** インスタンスを起動する。
    - **webAutoStart** 変数を **yes** に設定した場合は、管理サーバーと **Web Server** インスタンスが実行されていることを検証する。

---

# Web Server インスタンスの作成と削除

## ▼ Web Server インスタンスを追加で作成する

Sun Java System Web Server プラグインは、サーバーに新しい Web Server インスタンスを作成することはできません。ただし、プラグインを使用すると、手動で作成した Web Server インスタンスを制御できます。したがって、Web Server インスタンスを手動で作成した場合は、次の手順を実行し、新しい Web Server インスタンスを追加するよう N1 Service Provisioning System データベースをアップデートします。

- 手順
1. 管理サーバーにアクセスし、新しい **Web Server** インスタンスを作成します。  
詳細は、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Installation Guide for UNIX』を参照してください。
  2. プロビジョニングシステムのブラウザインタフェースで、左側のコントロールパネルの「**Common Tasks**」から「**Sun Java System WS6**」アイコンをクリックします。
  3. 「**Create Web Server instance: create**」リンクをクリックします。
  4. 「**Run**」ボタンをクリックします。
  5. 「**Plan Parameters**」テーブルで、**WebServerInstance** コンポーネントの「**Variable Settings**」列から「**Select From List**」をクリックします。  
「Select a Variable Setting」ウィンドウが開きます。
  6. 「**Variable Settings**」のリストで、説明に従って次の変数を変更します。
    - a. **hostName** 変数を、**Web Server** インスタンスを作成したときに「**Web Server** 管理サーバー」ページの「**Server Identifier**」フィールドに入力した値に設定します。
    - b. **domainName** 変数を、「**Web Server** 管理サーバー」ページの「**Server Identifier**」フィールドにドメイン名として入力した値に設定します。「**Server Identifier**」フィールドでドメイン名を指定しなかった場合は、**domainName** の値を **null** に設定します。
    - c. **webInstancePort** 変数を、**Web Server** インスタンスにアクセスするポート番号に設定します。
    - d. 「**Select**」ボタンをクリックします。

その他の変数の設定に関する詳細については、32 ページの「**WebServerInstance** コンポーネント」を参照してください。

7. ターゲットホストを選択します。
8. 「**Run Plan (includes preflight)**」 ボタンをクリックします。  
CreateWebServerInstance プランは、Web Server インスタンスに対してホストタイプが `com.sun.jes6_WS#WebServerInstanceHT` の仮想ホストを作成します。

## ▼ Web Server インスタンスを削除する

Sun Java System Web Server プラグインは、サーバーから Web Server インスタンスを削除することはできません。したがって、管理サーバーを使用して Web Server インスタンスを手動で削除する必要があります。次に、次の手順を実行して Web Server インスタンスを N1 Service Provisioning System データベースから削除します。

- 手順
1. 管理サーバーにアクセスし、**Web Server** インスタンスを削除します。
  2. プロビジョニングシステムのブラウザインタフェースで、左側のコントロールパネルの「**Common Tasks**」から「**Sun Java System WS6**」アイコンをクリックします。
  3. 「**Delete Web Server instance: delete**」リンクをクリックします。
  4. 「**Run**」ボタンをクリックします。
  5. 「**Plan Variables**」セクションの「**installPath**」フィールドに、この **Web Server** インスタンスに対する **installPath** 変数を入力します。  
installPath のデフォルト値は `/tmp/hostname` です。hostname は、この Web Server インスタンスを作成したときに hostname 変数に入力した値です。  
installPath, の値を見つけるには、次の手順を実行します。
    - a. 左側のコントロールパネルの「**Hosts Setup**」セクションで、「**Hosts**」をクリックします。
    - b. ホスト一覧の中から、アンインストールする **Web Server** インスタンスを制御する管理サーバーをインストールした仮想ホストをクリックします。  
管理サーバーの仮想ホストのホストタイプは `com.sun.jes6_WS#WebAdminServerHT` です。
    - c. 「**Components Installed**」ボタンをクリックします。
    - d. 「**Components Installed on Host**」テーブルで、アンインストールする `/com/sun/jes6_WS/WebServerInstance` コンポーネントを指定します。  
Web Server インスタンスを指定するには、Web Server インスタンスをインストールしたときに選択した変数設定を確認します。「**Installed**」列で、日時をクリックします。
    - e. 「**Install Path**」列から、アンインストールする `/com/sun/jes6_WS/WebServerInstance` コンポーネントの値を見つけます。



---

注意 – `installPath` 変数を設定していない場合は、プロビジョニングシステムは、選択した管理サーバー用に作成した最新の Web Server インスタンスを削除します。

---

6. 「**Run Plan (includes preflight)**」 ボタンをクリックします。  
プロビジョニングシステムは、Web Server インスタンスの仮想ホストを削除します。

---

## Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 の制御

Sun Java System Web Server プラグインを使用すると、管理サーバーおよび Web Server インスタンスを起動、停止、および再起動できます。

### ▼ 管理サーバーおよび Web Server インスタンスを制御する

- 手順
1. 左側のコントロールパネルの「**Application deployment**」セクションで、「**Components**」をクリックします。
  2. 「**Components**」のリストで、制御するサーバーのタイプのコンポーネントをクリックします。
    - 管理サーバーを制御するには、「**WebAdminServer component**」をクリックします。
    - Web Server インスタンスを制御するには、「**WebAdminServer component**」をクリックします。
  3. 実行する **Component Procedure** を選択し、「**Run**」リンクをクリックします。  
コンポーネントプロシージャに関する詳細については、29 ページの「**コンポーネント**」を参照してください。
  4. 「**Run details**」ページで、このプロシージャを実行するホストを選択します。
  5. 「**Run Selected Installations**」 ボタンをクリックします。



## 第 5 章

---

# コンポーネント、プラン、およびホストタイプに関する詳細

---

この章では、Sun Java System Web Server プラグインが提供するプランおよびコンポーネントで使用される変数と値に関する情報を提供します。この章は、次の節で構成されます。

- 29 ページの「コンポーネント」
- 33 ページの「プラン」
- 34 ページの「ホストタイプ」

---

## コンポーネント

Sun Java System Web Server プラグインでは、管理サーバーと Web Server インスタンスを制御する 2 つのコンポーネントを提供します。

### WebAdminServer コンポーネント

WebAdminServer コンポーネントは、管理サーバーを停止、起動、および再起動する制御機能を提供します。WebAdminServer コンポーネントで使用できるコンポーネント変数とコンポーネントプロシージャについては、次に解説します。管理サーバーの制御手順については、27 ページの「[Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 の制御](#)」を参照してください。

### コンポーネント変数

`installPath`

管理サーバーのインストールに必要な、名前/値ペアを含む状態ファイルをインストールするターゲットホストのパス。

exitOnDependency	この変数の値は、依存関係が失敗したときにインストールを終了するかどうかを決定します。デフォルト値は no です。
logCurrentlyInstalled	この変数の値は、プロビジョニングシステムがターゲットホストにインストールされている Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 のアイテムのログを作成するかどうかを決定します。有効な値は yes と no です。
removeBundledProducts	この変数の値は、管理サーバーをインストールするためにプロビジョニングシステムが使用する状態ファイルの REMOVE_BUNDLED_PRODUCTS 変数を生成させます。この変数は、デフォルトでは空白です。
upgradeincompatibleJDK	この変数の値は、ターゲットホストにインストールされた JDK™ ソフトウェアのバージョンが Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 に対応していない場合に、JDK ソフトウェアをアップグレードするかどうかを決定します。有効な値は yes と no です。
jesInstallPath	管理サーバーをインストールするターゲットホストのパス。
hostName	ターゲットシステムのホスト名。
hostDomain	ターゲットシステムのドメイン名。
ipAddress	ターゲットシステムの IP アドレス。
jesAdminUser	Sun Java Enterprise System のすべてのコンポーネントのユーザー ID。詳細は、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Installation Guide for UNIX』内の CMN_ADMIN_USER についての情報を参照してください。
jesSystemUser	コンポーネント処理を実行するユーザー ID。
jesSystemGroup	jesSystemUser のグループ。  管理サーバーを Linux サーバーにインストールする場合は、jesSystemGroup 変数を root に設定します。
webAdminUser	Administration Server にログインするためのユーザー ID。
adminPort	管理サーバーにアクセスするためのポート。
webAdminSystemUser	管理サーバー処理を実行するユーザー ID。

webInstanceUser	Web Server のデフォルトインスタンスをシステムで実行するときのユーザー ID。  管理サーバーを Linux サーバーにインストールする場合は、webInstanceGroup 変数を nobody に設定します。
webInstanceGroup	Web Server のデフォルトインスタンスを実行するグループ ID。  管理サーバーを Linux サーバーにインストールする場合は、webInstanceGroup 変数を nobody に設定します。
webInstancePort	Web Server インスタンスにアクセスするために使用するポート。
docRoot	コンテンツドキュメントを保存するための、Web Server 上のパス。
webAutoStart	この変数の値は、システムの起動時に管理サーバーと Web Server インスタンスを起動するブートスクリプトをプロビジョニングサーバーが作成するかどうかを決定します。有効な値は y と n です。
startOnInstall	この変数の値は、インストールが完了したときにプロビジョニングサーバーが管理サーバーと Web Server のインスタンスを起動するかどうかを決定します。有効な値は y と n です。
JES_Media_Directory	ターゲットホスト上の Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 のインストールバイナリへのパス。

## コンポーネントプロシージャ

markOnly:install	手動でインストールした管理サーバーを追加するよう N1 Service Provisioning System データベースをアップデートするには、このプロシージャを使用します。
markOnly:uninstall	手動でアンインストールした管理サーバーを削除するよう N1 Service Provisioning System データベースをアップデートするには、このプロシージャを使用します。
StartWebAdminServer	管理サーバーを起動するには、このプロシージャを使用します。
RestartWebAdminServer	管理サーバーを停止してから再起動するには、このプロシージャを使用します。

StopWebAdminServer      管理サーバーを停止するには、このプロシージャーを使用します。

## WebServerInstance コンポーネント

WebServerInstance コンポーネントは、Web Server インスタンスを停止、起動、および再起動する制御機能を提供します。WebServerInstance コンポーネントで使用できるコンポーネント変数とコンポーネントプロシージャーについては、次に解説します。Web Server インスタンスを制御する方法については、[27 ページの「Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 の制御」](#)を参照してください。

### コンポーネント変数

jesInstallPath	Web Server インスタンスをインストールする、ターゲットホスト上のパス。
hostName	Web Server インスタンスを作成したときに、「Web Server 管理サーバー」ページの「Server Identifier」フィールドに入力した値。
hostDomain	Web Server をインストールするシステムのドメイン名。管理サーバーに Web Server インスタンスを作成したときに、「Server Identifier」フィールドにドメイン名を指定しなかった場合は、hostDomain 値を null に設定します。
webInstancePort	Web Server インスタンスにアクセスするために使用するポート。
docRoot	コンテンツドキュメントを保存するための、Web Server 上のパス。
webAutoStart	この変数の値は、システムの起動時に Web Server インスタンスを起動するブートスクリプトをプロビジョニングサーバーが作成するかどうかを決定します。有効な値は y と n です。
startOnInstall	この変数の値は、インストールが完了したときにプロビジョニングサーバーが Web Server のインスタンスを起動するかどうかを決定します。有効な値は y と n です。
installPath	プロビジョニングシステムは installPath 変数を使用し、さまざまな Web Server のインスタンスを識別します。この変数のデフォルト値は /tmp/hostname です。hostname は、hostname 変数に入力した値です。  Web Server インスタンスを削除する場合は、「Plan run」ページの「InstallPath」フィールドに installPath 変数を入力する必要があります。

## コンポーネントプロシージャ

StartWebServer	Web Server インスタンスを起動するには、このプロシージャを使用します。
RestartWebServer	Web Server インスタンスを停止してから再起動するには、このプロシージャを使用します。
StopWebServer	Web Server インスタンスを停止するには、このプロシージャを使用します。

---

## プラン

Sun Java System Web Server プラグインには、Web Server 製品のインストールおよびアンインストールに使用されるプランがいくつか含まれています。

### InstallWebAdminServer プラン

InstallWebAdminServer プランは、管理サーバーおよび 1 つめの Web Server インスタンスをインストールします。InstallWebAdminServer プランの使用方法については、[22 ページの「Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5 のインストール」](#)を参照してください。

### UninstallWebAdminServer プラン

UninstallWebAdminServer プランは、管理サーバーおよび関連するすべての Web Server インスタンスをアンインストールします。UninstallWebAdminServer プランの実行に先立ち、すべての Web Server インスタンスで実行されているすべてのアプリケーションを手動でアンインストールする必要があります。

### CreateWebServerInstance プラン

プロビジョニングシステムを使用して管理サーバーをインストールすると、プロビジョニングシステムは 1 つめの Web Server インスタンスもインストールします。プロビジョニングシステムを使用し、Web Server インスタンスを追加してインストールすることはできません。ただし、管理サーバーを使用して追加の Web Server インスタンスを手動で作成したあとに、CreateWebServerInstance プランを使用して N1 Service Provisioning System データベースをアップデートし、新しい Web Server イン

スタンスを追加することはできます。このプランは、新しい Web Server インスタンス用として N1 Service Provisioning System データベースに新しい仮想ホストを作成します。WebServerInstance コンポーネントのコンポーネントプロシージャーを使用すると、プロビジョニングシステムを通じて Web Server インスタンスを制御できます。

CreateWebServerInstance プランの使用方法については、25 ページの「Web Server インスタンスを追加で作成する」を参照してください。

## DeleteWebServerInstance プラン

管理サーバーを使用して手動で Web Server インスタンスを削除すると、DeleteWebServerInstance プランを使用して N1 Service Provisioning System データベースをアップデートし、Web Server インスタンスを削除できます。このプランは、削除された Web Server インスタンスの仮想ホストも削除します。

DeleteWebServerInstance プランの使用方法については、26 ページの「Web Server インスタンスを削除する」を参照してください。

---

## ホストタイプ

プロビジョニングシステムが管理サーバーまたは Web Server インスタンスをインストールすると、プロビジョニングシステムはインストールされたサーバーの仮想ホストを作成します。プロビジョニングシステムは、新しく作成された仮想ホストに、次のうちのどちらかのホストタイプを割り当てます。

- com.sun.jes6\_WS#WebAdminServerHT - プロビジョニングシステムは、管理サーバーの仮想ホストに対し、このホストタイプを割り当てます。
- com.sun.jes6\_WS#WebServerInstanceHT - プロビジョニングシステムは、Web Server インスタンスの仮想ホストに対し、このホストタイプを割り当てます。

# 索引

---

## J

JAR ファイル, 17  
Java アーカイブ, 「JAR ファイル」を参照  
JES\_ADMIN\_PASSWORD, 22-23

## L

Linux, インストールするコンポーネント変数の  
設定, 23-24

## S

Sun Java System Web Server プラグインのイン  
ポート, 18-19

## W

WEB\_ADMIN\_PASSWORD, 22-23  
WebAdminServer  
コンポーネントプロシージャ, 31-32  
コンポーネント変数, 29-31  
説明, 29-32  
WebServerInstance  
コンポーネントプロシージャ, 33  
コンポーネント変数, 32  
説明, 32-33  
Web Server インスタンス  
1 つめのインスタンスのインストール, 22-24  
2 つめのインスタンスのインストール, 25-26  
インスタンスの削除, 26-27

Web Server インスタンス (続き)

制御, 27  
パスワード, 22-23

## い

インストール  
1 つめの Web Server インスタンス, 22-24  
2 つめの Web Server インスタンス, 25-26  
管理サーバー, 22-24

## か

管理サーバー  
アンインストール, 33  
インストール, 22-24  
制御, 27  
パスワード, 22-23

## こ

コンポーネント  
WebAdminServer, 29-32  
WebServerInstance, 32-33  
説明, 29-33  
コンポーネントプロシージャ  
WebAdminServer, 31-32  
WebServerInstance, 33  
コンポーネント変数  
WebAdminServer, 29-31

コンポーネント変数 (続き)  
WebServerInstance, 32

ほ  
ホストタイプ, 説明, 34

さ  
削除

Web Server インスタンス, 26-27  
管理サーバー, 33

せ  
制御

Web Server インスタンス, 27  
管理サーバー, 27  
セッション変数, 22-23

た

ターゲットホストの要件, 10-11

は

パスワード

Web Server インスタンス, 22-23  
管理サーバー, 22-23

ふ

プラグイン

JAR ファイルの場所, 17  
インポート, 18-19  
コンポーネント, 29-33  
ターゲットホストの要件, 10-11  
内容, 10  
プラン, 33-34  
ホストタイプ, 34  
プラグインファイル  
インポート, 18-19  
場所, 17  
プラン, 説明, 33-34